

どのような基準で学業成績の結果を出したか。【創造科学系】

小レポート、授業参加度(合わせて50%)、および筆記試験(50%)で総合評価した。

課題に対する回答、取り組み。出席率。

成績は毎時間提出する小レポートと学期末の試験で結果を出した。小レポートでは毎時間の講義に対する意欲と理解度を測り、試験では半期の授業全般への理解度を見た。全ての小レポートと試験結果を総合し、それぞれの程度に応じた成績を出した。

本授業では、5つの題材を設定しました。その一つ一つについて、受講生全員の作品の写真を撮り、その後教員側でプリントをし、その写真を毎回A4サイズのレポート1枚に貼って提出して頂くようにしました。またこのレポートでは、作品を制作する過程を細かく記録するように指示をし、どれだけどのように失敗したり試行錯誤したりしたかを、また制作の過程でどれだけどのように悩んだり苦労したりしたかを明記するようにしました。また自らの制作過程の中でいかに工夫したかなどをレポートの中でアピールするように指示をしました。各自が提出した5枚のレポートの提出状況とその内容、さらに普段の授業の中で記録した各自の課題に取り組む姿勢の両面から、本授業の学業成績の結果を出しました。

両時間とも、授業内で不定期に実施したミニレポートの記載内容、授業実施時の活動量、実技のため参加状況から評価しました。

出席4割、レポート提出2割、レポートの内容1割、発表1割、試験1割、授業への参加度1割

出席状況(40%)、授業態度(30%)、目標到達度(30%)で総合的に判断した。授業に対する積極性も高く、スタート時の技術レベルに差はあるが、回数を重ねるごとに技術レベルの向上も見られたため、全体的に高評価となった。

課題の達成度および課題へ取り組む態度によって評価した。

授業の性格上、出席することに大きな意味合いがあるため、出席に関する配点を高くして評価を行った。|受講生の平均出席率が92%であったことから、全体的に高評価となった。

毎回の授業への参加・コメント(35%)、ミニレポート(15%)、最終レポート・最終報告(50%)を、総合的に評価した。

6テーマの担当教員がそれぞれの担当時について、各10点の持ち点で評価をし、最終レポートは受講生がレポートを読んでほしい教員を指定し、その教員が40点の持ち点で評価を行った。